

松嶋夜話 卷之下 39

〔原文〕大宛傳其東南有身毒國

〔訓読〕大宛傳に其の東南に身毒（しんどく）國有り、

〔原文〕即天竺也曰

〔訓読〕即ち天竺なりと曰ふ

〔原文〕因以其字注

〔訓読〕因りて其の字注を以（み）るに

〔原文〕以身毒之身爲其堅切

〔訓読〕身毒の身を以て、其の堅切と爲り

〔原文〕而身毒乾竺之音也云云

〔訓読〕身毒（ちんどく）は乾竺の音なり、云云

〔原文〕余其后見說郛中釋適之金壺字考曰

〔訓読〕余其の後說郛を見て、中に釋適之が金壺字考に曰く

※『金壺字考』：中国・宋代の僧である適之（釈適之）によって編纂された、漢字の音や意味の誤り、俗字を正すための字書・音韻書

〔原文〕身毒之音天竺也

〔訓読〕身毒（てんじく）の音は天竺なり

〔原文〕余見之身毒乃可讀天竺之音

〔訓読〕余之を見れば、身毒（てんじく）は乃ち天竺の音に讀むべし

〔原文〕爲乾音不然

〔訓読〕乾の音と爲るは然らず